

進捗報告書（資金分配団体）

事業名:	近畿圏におかえる生活支援助成事業
資金分配団体:	公益財団法人 信頼資本財団
実行団体数:	15団体
実施時期:	2021年3月～2022年3月
事業対象地域:	滋賀県、京都府、奈良県、兵庫県、大阪府、和歌山県
事業対象者:	生活困窮や精神的不安状態の人・孤立状態の人・働きづらさを抱えている人・雇用の創出、維持に関わる事業者

Version 1.0
日付: 2021年10月21日

I. 事業概要

事業概要
本事業ではテーマを3つ設定し助成をする。 1.失業や収入減少が原因で生活困窮や精神的不安状態の人への生活、精神的支援（深刻化した課題への緊急対応） 2.他者との関わりが制限される中で孤立状態の人への感染拡大に配慮したつながり作り（孤立状態の人が新たな課題に直面することの予防） 3.雇用創出、維持の為に事業者、労働者の支援（雇用への影響を減らす根本的アプローチ） これらの緊急対応、予防、根本的アプローチにより包括的な助成を行なう。 また2019資金分配団体として築いたアライアンスに加え、従来のステークホルダー、近畿圏内の中間支援団体や経済団体、自治体等と連携し、実行団体の公募と伴走支援を行なう。

II. 進捗報告の概要

総括
全体的には、概ね順調に進んでいると認識をしている。ただし、緊急事態宣言の中、リアルでの集まり、対面支援、イベントなどを自粛さざるおえない状況や、キッチンカーや建築資材やデジタル機器などが市場での供給不足もあり、調達時期が遅れ事業の進捗に影響がでた実行団体もあった。団体間で格差はあるものの、そうした目まぐるしい環境変化の中、柔軟に対応しながら当初の事業目標の生活支援助成に向かって実行団体の伴走支援を継続している。また、上記の3テーマに加えて、実行団体の事業内容から、増加する子どもの虐待を防止するための手法を普及する。とコロナ患者が訪問診療を受けられる。の2テーマを追加した。

III. 活動実績

資金支援

アウトプット（今回の事業実施で達成される状態）	進捗状況
①生活困窮状態の人が食料や生活用品を得て、安心したり将来に希望がみえるようになる。 ②孤立状態の人がケアの専門家（介護ヘルパーやカウンセラー等）や近い境遇の人とのコミュニケーションを、オンラインや感染症対策がなされた場でとることで、精神的な安定を得られる。時に生きづらさを抱えた人の居場所になる ③不安定な労働環境の人、働きづらさを抱えている人への能力開発、就労支援や協力企業等へのマッチングにより、雇用が維持・創出される。 ④増加する子どもの虐待を防止するための手法を普及する。 ⑤コロナ患者が訪問診療を受けられる。	①コロナ禍で生活困窮している状態の人は想像以上に多く、食料や生活物資を求める世代も子供から高齢者まで、幅広い層となっている。特に京都では、食料物資の寄付などの仕組みが確立されていない状況で、解決しないといけない社会課題だと実感している。（和音ねっと・無限・場とつながり・マイママセラピー・SOULS・D×P） ②親子問題、引きこもり、不登校、孤立、自殺などのテーマに向き合っている実行団体から報告を受け、益々これらの課題はコロナの影響も受け、増加していっていると捉えている。各地域で親子のコミュニケーションのカウンセリングやフリースクール、子供食堂、自殺相談の駆け込み相談を行い一定の成果は出ているが、まだまだ潜在的なニーズを感じている。（育ちとつながりの家ちとせ・京都自死、自殺センター・くじら雲・TSC・わかきさねっと） ③コロナ禍での倒産や解雇により、社会的身体的弱者の雇用の維持が危ぶまれている。新たな雇用創出で新しいスキルを身に付けたり、職場のコミュニティーに属することで精神的な安心感ややりがい、働きがい、生きがいを見つげられるような職場の形成を目指し、雇用を進めている。（MIRISE・革靴を履いた猫） ④オンラインによる子育て支援プログラム（Triple P On-line）を翻訳し、11月より普及活動に入る予定。（和歌山子どもの虐待防止協会） ⑤2021年4月から6月までの集計で患者104人への往診。介入症例での自宅死亡0。24時間以内での患者往診達成。ハイリスク患者であっても断りなしにほぼ全例の受け入れを達成。（

実行団体名	進捗状況	概要
特定非営利活動法人場とつながりの研究センター	ほぼ計画通り	現在、当団体が相談支援を行っている取り組みが6団体ある（内訳：三田市4団体（三田小学校区2団体、狭間小学校区1団体、武庫小学校区1団体）、神戸市北神区1団体（有野小学校区1団体）、大阪府豊能町1団体）。これを本年度末までに10団体に増やすとともに、重点エリアの小学校区に複数箇所の居場所ができるよう、地縁団体を中心に働きかけを行っている。 重点エリアの設定は4箇所を想定している。現在、三田市2箇所（三田小学校区、武庫小学校区）は決まっており、残り2箇所の目星をつけるもの、今後の取組みでの出会いによってエリアを設定したいと考えている。

一般社団法人無限	ほぼ計画通り	<p>寄付付きの弁当は9/1～9/28の間に600個販売ができています (稼働日数22日) チロルカレーは42食販売。 来店数は平日は平均で54人 土曜日152人 寄付の総額は現金=67284円 弁当に付帯している寄付=約117000円 オープニングの話題性による収益も大きいですが、今後もこの寄付の流れを継続していけるように努力が必要。</p>
一般社団法人育ちとつながりの家ちとせ	ほぼ計画通り	<p>①6月より10名の親子に支援を開始。A～Eより各子どもの状況に合わせて支援額を上限164,000円/組とし、2月までの支援プランを組み予定通り実施している。当法人のフリースクールを利用している親子の中で9組の申し込みがあったため、Eの支援を中心に支援プランを立てている。スクールの利用状況に合わせて週2回利用分の会費を無償にしているケースもある。このサービスを受けることで、利用回数を増やす、個人セッションを受ける等これまで経済的理由で諦めていた支援回数をふやすことが可能となっている。</p> <p>6月からスタートした10組の内1組、親御さんが子どもの支援を継続することが困難になり、1か月程で支援を中断したケースがあった。支援額16万円の内4万円程残ってしまったが、1組新たに申し込みがあったため、4万円分の支援プランを立て実施している。</p> <p>②新規問い合わせ11件中72%に当たる8件が事業の利用に結びついている。目標値相当。</p> <p>利用者の申し込み日数通りの利用がほぼ叶っている。</p> <p>③1本の動画講座が完成し、指導者・支援者の育成に使用している。残り1本分の動画については作成の素材となる動画を撮りためている。</p> <p>④無料動画コンテンツを1本作製しSNSやHPで公開済。</p> <p>新たな取り組みとしてFBグループ開設、お話し会、zoomケースワーク会を開催した。</p>
認定特定非営利活動法人マイマ・セラビー	計画通り	<p>当初計画については順調にすすんでいる 追加事業 こども食堂等については、他機関へ紹介と考えていたが、「まちのほけんしつ」で小さな形で開催できる可能性が出てきた。年度内にあと2回程度開催予定。 各地で起こる災害について母子防災の拠点としてできることについて検討をする。</p>
特定非営利活動法人 和歌山子どもの虐待防止協会	ほぼ計画通り	<p>1. オンラインによる子育て支援プログラム (Triple P On-line : 以下TPオンライン) を開発したトリプルPインターナショナルと協議の上、以下の作業 (プログラム提供システム構築) を依頼し、プログラム配信時期を検討した。(6月から9月)</p> <p>①TPオンライン講座に関するあらゆる教材・書類の翻訳 (8モジュールの教材、課題、講義 ノート、修了書など)、および挿入ビデオの翻訳と編集。 ②TPオンラインにアクセスできるサーバーの整備 ③TPオンライン配信の整備</p> <p>上記に関する同意のためLOA(Letter of Agreement)を作成し、10月1日付けで署名完了した。</p> <p>2. プログラムは和歌山県下の一般養育者150名、児童相談所等職員50名の計200名に提供する。プログラム参加を事前に募るため案内チラシを作成 (和歌山県、和歌山県教育委員会後援を取得) した (9月)。</p> <p>3. 200名においてプログラム効果を分析・評価のため、和歌山県立医科大学倫理委員会に研究実施申請を行った (9月)。</p>
一般社団法人和音ねっと	ほぼ計画通り	<p>1. 学習支援活動=ひとり親家庭の子供達を中心に利用人数は一日平均5人～10人。6月から週1回の学習支援であったが、子供達のニーズが高まった事もあり、7月より週2回、夏休みは子供食堂と抱き合わせて実施。コロナ禍における学習の遅れ、元々学校へ行けない不登校児、発達障害を抱えるなど複数の課題を抱える子供達に対して、学生による学習支援は個々の状態像に合わせた支援を作りながら取り組んだ事により、遅れていた学びを少しずつではあるが解消しつつある。また、学生自身における教育実践にも繋がっている。</p> <p>2. 子供食堂活動=6月より隔週日曜日の開催でスタート。7月22日～8月24日まで夏休み期間中の子供食堂、合計32日間開催。一日利用人数平均10人～15人、利用する子供達の半数がひとり親世帯、ヤングケアラー、発達障害等複数の課題を抱えている子供達。学生スタッフによる学習支援と遊び相手、一緒に掃除や調理に取り組む食育活動を実施。ピアノでのリズム体操・遠足・夏祭りなどにも取り組んだ。また、保護者との連携を図る為、定期的な親子カウンセリングの開催や教育懇談会開催を図るなど、現在抱えている課題について情報共有するなどの取り組みを行っている。</p> <p>3. 食料支援等活動=6月より生活困窮しているひとり親世帯等を含めた食料支援等を実施。お米や野菜などを中心に配布。地域や協力頂いている企業から少しではあるが物資による寄付なども併せて配布し、教育・就労・等含めた生活相談も他の法人と連携を図りながら対応している。また、生理の貧困問題に対しては、社会福祉協議会からの委託で、女性用品の配布を相談事業と共にやっている。</p> <p>4. 一時預かり保護事業活動=賃貸マンションでの緊急避難 (月2組世帯の利用) コロナにおける自宅隔離が困難な世帯における支援活動。安否確認見守り活動を実施。不安に寄り添う事での安心感や、専門職による相談を行っている。</p>

<p>認定NPO法人D×P</p>	<p>計画通り</p>	<p>5月から9月までの成果 ①ユキサキチャット登録数1579名 ②相談者実人数 729名 ③ネクストアクション 714回 ④他団体研修_実施団体数4団体(8人) ユキサキ</p> <p>チャットでは、メイン事業である不登校・引きこもり状態にある10代の進路相談や、コロナ禍における生活の相談を受けています。不登校・引きこもり状態の相談は19%、進学・就職については22%、現金給付・食糧支援などの生活についての相談は41%となっています。 食糧支援や現金給付は、年度当初の計画を大幅に上回る問い合わせをいただき、追加予算を計上しながら対応しています。 PC寄贈は、プログラミングをやってみたい、パソコンを使った仕事をしたいなど希望があるが、経済的に自分のPCを持つことができない環境に居る10代の方に渡しています。 他団体への研修は、それぞれの団体が持つ専門性を活かして、新事業としてオンラインでの相談の開設を検討している方向けに研修を実施し、相談対応のノウハウ提供も行っています。</p>
<p>認定特定非営利活動法人 京都自死・自殺相談センター</p>	<p>遅延あり</p>	<p>全体として日程の遅れは生じているが想定活動を順次進めている。特に事業費の大半を占めるアプリケーションについては、リリース前に検証を踏まえてテストにしっかり時間を費やした方が良いだろうと判断し、当初よりリリース時期を1ヶ月遅らせた。また、メンタルヘルスに資するアプリであることを鑑みると、2月はじめにリリースした直後は、ネガティブな評判・フィードバックのリスクを下げるため、まずは関係者周辺で検証回しながらミニマムスタートを行うべきだろうと考えている。懸念点として、利用者が増え続けサーバー容量を超えてしまうと、サーバーがダウンしてしまう、あるいは、容量追加のために課金を繰り返す必要が出てくる。そこで、サーバー提供会社に、非営利な事業であること、ならびに、事業の社会的な意義に賛同してもらい、サーバー無償提供などの可能性について相談していかなければならない。サーバーだけでなく、リリース後の保守・運用にかかる費用の課題について、今後本格的に企業への営業などを行なっていく必要がある。</p>
<p>一般社団法人 くじら雲</p>	<p>ほぼ計画通り</p>	<p>事業開始以降、本助成事業実施にかかる体制整備と、実際に支援を必要とされる方のニーズの掘り起こしを中心に進めてきました。 訪問して支援を行う「くらす」、不登校の子どもたちを中心とした居場所づくり「イロトリドリ」を軸としながら、保護者の語らいの場「ことなば」、乳幼児と親子の居場所「そらな」という4つの事業を、それぞれ名前をつけて取り組みを進めています。 事業の実施体制はそれぞれ構築ができました。実際の支援については、居場所づくり事業が先行しており、具体的なニーズを把握する試行実施や、オープンデー、個別の見学を経て、10月から実際に子どもが通い始める状況になっています。 訪問支援については、折込広告での告知を行ったものの、実際の支援の希望はまだ少数にとどまっている状況です。引き続きニーズの掘り起こしと、利用のきっかけを、どうつくるかを考えた取り組みが必要です。 支援にあたる職員の対人援助の技能を向上させる研修も行っており、今後も継続して実施していきます。 10月以降、具体的な支援を動かしながら、来年度以降の継続につながるよう、特に訪問事業の進化に向けた取り組みを強化していきます。</p>
<p>株式会社MIRISE</p>	<p>ほぼ計画通り</p>	<p>購入商品（PC備品等）の納品時期が遅れたことや販売商品の内容を変更したことなどにより、一部の事業（ECサイト事業開始）の日程に遅れを伴っているが、全体としては想定通りの活動を行えている。 ECサイトの仕入商品の分野選別で、万年筆等の筆記用具を中心とした商品の販売を予定していたが、関係者の助言を踏まえ、社内で再検討し、ボードゲームを商材としていく方向性で決定した。今後は仕入れ商品の詳細を現場の声を反映して検討しながら実施をしていく予定。 ・雇用者数7名（2021年10月現在） ※5月～9月での見学者数73名、面接者数16名 ・雇用3ヶ月後の面談では、雇用継続の確認の他に、生活リズムの安定や入職後から自己肯定感について聞いている。 不安定な日中リズムから、月曜日から金曜日の決まった時間で働く就労リズムとなり精神的に落ち着いてきたとの感想も出された。また、障害者に対する配慮がなく今までの職場での辛い経験から長続きしなかった方が、環境が変われば障害があっても自信を持って継続して働けるという就労意欲の高さを聞くことが出来た。</p>

Kyoto Intensive area care unit for SARS-Cov2対策部隊(KISA2隊)	計画通り	<p>コロナ陽性、もしくは濃厚接触者となった患者に対して事業を行っている。自宅、もしくはホテル療養を含む一般社会からの隔離患者に対して、24時間体制での在宅医療を核として医師、看護師、歯科医師、薬剤師、栄養士、療法士、介護事業者、医療事務、メディカルコーディネータ、等が連携して在宅サポート。必要な処置、適切なアセスメントをもって、多職種連携を核として在宅医療を行い、自宅での隔離期間中の主な医療介護補助を行っている。活動の成果については積極的に情報開示を行い、各種学会、各種医療介護関連団体等への情報発信は透明性をもって行っている。各種医療介護学会、研究会からの招聘があれば積極的に登壇参加を行い、コロナ感染状況下での必要な技術、思考、今後の危機管理に関する現場からの発信を行っている。2021年4月から6月までの集計で患者104人への往診。介入症例での自宅死亡0。24時間以内での患者往診達成。ハイリスク患者であっても断りなしにほぼ全例の受け入れを達成。</p> <p>1日最大管理患者30人、社会現象の一端を担う。</p> <p>2021年2月から9月末までで各種勉強会総登壇回数36回。</p> <p>TV報道はほぼ全社。新聞紙面ほぼ全社。KBSラジオ「笑福亭晃瓶のほっかほかラジオ」出演</p> <p>京都府内でのコロナ陽性妊婦への往診、胎児診察を含めた産婦人科医との拡張連携往診を施行。</p>
認定NPO法人TSC	ほぼ計画通り	<p>2021年5月に本助成の契約を締結し、6月から開校に向けての具体的な準備がスタートしました。8月には夏休み期間を活用して、プレ活動となる1週間単位で参加可能なサマーフリースクールを実施しました。2期(5日間の合計10日間)開催し、それぞれ3名ずつの参加と少数ではありましたが、参加してくれた子どもたちには大変喜んでくれたことと、本開校に向けての運営側のトレーニングとして良い学びとなったことから、有意義な活動となりました。</p> <p>9月中を予定していた本開校は、下水道の許可申請の遅れにより10月5日開校に変更となりましたが、9月は緊急事態宣言の影響も大きかったことから、結果としては良いタイミングでの開校となりました。開校に向けて大きな告知は行わず、口コミや個別説明で私たちの想いを伝え、その想いに共感して下さった3名の生徒が開校初日からの入学者として集まってくれました。年内は運営側の力をつけることと、生徒たちがフリースクールの活動に慣れることに主眼を置きながら、口コミ中心での広報を予定しています。</p>
株式会社革靴をはいた猫	ほぼ計画通り	<p>→コミュニティを形成する初期メンバーを集めるアクションの結果、約20名の学生・若者と活動を共にして、中核となるメンバーが10名程度集まっている</p> <p>→初期はプログラムの内容として靴磨きのみが主流だったが、大丸京都店での接客やチラシ配り、靴のWEB販売企画など活動のバリエーションが広がっている</p> <p>→コンソーシアム参加団体の日本インクルージョン協会が主導する教育プログラムを学生・若者に継続的に実施中</p> <p>→地域の大学、NPO法人、福祉法人、定時制高校などに本プロジェクトの存在を知らせて紹介が来るルートをつくり、今後は学生・若者の口コミや企画を強化する</p> <p>→現時点では、革靴をはいた猫への就労を希望する若者以外、就労ニーズを持っているメンバーがいないため教育訓練と雇用に必要な中古靴市場の創造に注力している</p>
合同会社SOULS	遅延あり	<p>全体的に遅れはあるが、一部中止・縮小しながらではあるがその他は計画通り進められている。コロナによりコミュニティーカーの車両不足という事態にも影響が出ていたが、比較的早く入手でき順調に進んでいる。地域の高齢者との交流が一時中止されることがあった。地域とのコミュニティー構築が遅れ気味である。課題としては、接触を恐れる傾向が地域によってある為、そのお気持ちに寄り添いながら進められる方法を検討していく。</p> <p>子育てサポートは、以前から行っている食事の形式を利用しやすいように変化させ身近なお母さんたちからモニターとして開始。今後の動きとしては、お惣菜加工場を完成・コミュニティーカーの始動により、母たちの雇用、地域との関りを深められる宅配を兼ねたコミュニティーの場作りを行っていく。</p>
一般社団法人京都わかくさねっと	遅延あり	<p>・「わかくさりビング」をつくる過程</p> <p>場所の選定、コンセプトワーク、インテリア等を少女たちが主体となって活動しました。それらの過程で、少女たちが居場所を大切にする気持ちや、メンバーとの関係性が深まることになりました。</p> <p>・10月1日プレオープン</p> <p>内容・水木金日開設。「おかえり」と晩ごはんと一緒に食べるシェアリビングとしての居場所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちの保健室機能。専門相談3回/月。自身の相談や振り返りができる機能 ・スタッフは少女。少女たちが主体的に関われる経験と就労支援としての場 <p>・組織の整理と基金づくり</p> <p>寄付を前提としたメディア戦略、HPの内容。</p>

非資金的支援（資金分配団体の伴走支援活動）

活動	進捗状況	概要
月次実行団体事業進捗報告会	計画通り	月に1度、15の実行団体と丸2日間に分けて、オンラインで事業の進捗報告を頂いて、事業進捗の課題、経理関連のご相談を頂く会議を継続しています。定期的な報告を頂く事で、事業進捗に有効な時間となっていると考えています。
POサポーター伴走支援	計画通り	信頼資本財団の社会事業家塾の卒業生を中心に、事業経験のある10名を人選し、15団体にそれぞれ伴走支援を行っています。サポーター自身の事業経験やスキルを活かし、実行団体との信頼関係を築き、寄り添いながら実行団体の事業進捗に寄与して頂いています。
月次POサポーター情報共有会	計画通り	月に1度、全POサポーターよりそれぞれの実行団体の事業の進捗や相談事項などを共有する会議を行っています。POサポーター同士が支え合い、関係性を深め、横の連携を取ることで、実行団体への伴走支援のクオリティを上げる目的を持って、継続的に実施しております。

IV. 事業実施後（1年以降）に目標とする状態への所感（中間時点）

自由記述
<p>コロナ禍の中、各実行団体の柔軟な活動の実践により、当初想定していた目標は概ね順調に進捗しており、現在のところ、目標達成は概ねできると考えている。ただし、地域での社会課題は引き続き継続するものであり、それを支援する実行団体が助成金終了後、どのように自走もしくは助成金などで活動を継続できるかが、大きな課題だと捉えている。自走可能な事業モデルもあれば、自走が困難な事業モデルもあり、この助成期間中に、目標達成はもちろんの事、助成期間終了後にしっかり活動が継続するための土台となる組織体制や事業モデルへの筋道を、POサポーターと共に構築していかなければ、持続可能な社会支援活動が難しいと捉えています。</p>

V. インプット

		2020年度	2021年度	合計	執行金額	執行率
事業費	実行団体への助成に充当される費用	¥0	¥0	¥0	¥0	#DIV/0!
	管理的経費	¥0	¥0	¥0	¥0	#DIV/0!
プログラム・オフィサー関連経費		¥0	¥0	¥0	¥0	#DIV/0!
合計		¥0	¥0	¥0	¥0	#DIV/0!
補足説明						

VI. 事業上の課題

事業実施上顕在化したリスク/阻害要因とその対応
<p>緊急事態宣言など社会情勢が目まぐるしく変化する中で、対面支援、セミナーなどの多人数でのコミュニケーション、訪問支援などのリアルコミュニケーションの実行の難しさを多くの団体で感じました。（子供食堂、居場所作り、訪問支援等）また、オンラインでの実行に切り替えられる活動は、積極的に行われているが、オンライン機器の操作、運用スキルなど難しい団体もあり、まだまだオンラインでの活動は普及しきっている状況とは言えないと思います。また、リアル対面での支援でしか効果が半減してしまうサービスは多々あり、感染症対策をしっかりとしながら、行っている状況です。対面と非対面のそれぞれの長所を適切に組合せながら、より社会事業での良い事例が作れるように伴走支援を継続していきたいと考えています。</p>

VII. その他

自由記述
特になし

VIII. 広報実績

広報内容	有無	内容
メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)	無	
広報制作物等	有	自社サイトで、15の実行団体とその担当のPOサポーターのインタビュー記事を外部委託し、掲載いたしました。 https://shinrai.or.jp/interview/interview-1578/
報告書等	無	

ガバナンス・コンプライアンス体制

1. 社員	状況	内容
2. 内部通報制度は整備されていますか。	はい	
3. 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	利用はなかった	
4. 関連する規程の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
5. コンプライアンス委員会は定期的開催されていますか。	はい	
6. コンプライアンス委員会で報告対象となる不正行為をJANPIAに報告済ですか？	はい	